

◆リレーエッセイ

読書会×街歩きの体験

(日本ナレッジ・マネジメント学会 理事 田村直樹)

ハイタッチの伝道師である日本電気株式会社の八田さんからリレーのバトンを受け取りました。

<今時の新社会人が情報を入手する媒体は？>

4月に新社会人に向けてナレッジ・マネジメントを紹介する機会がありました。その場で「普段、何から情報を入手しているか」をチャットで自由に書いてもらいました。一人複数の回答を可能とし選択肢を固定しなかったので多様な回答がありましたが、カテゴライズして集計しました。

媒体	回答数	割合
SNS	109	43%
ニュース	66	26%
動画投稿サイト	28	11%
インターネット検索	17	7%
書籍	16	6%
テレビ	7	3%
人に聞く	5	2%
新聞	5	2%
雑誌	2	1%

SNS が一番多い結果となりました。ニュース、書籍の集計には、ネットニュース、電子書籍が含まれており、デジタルの活用が主流となっています。

私が新社会人となった 90 年代前半はアナログが主流だったので時代の変化を大きく感じます。

<街歩き×読書会>

「書籍」と「人に聞く」を組み合わせたものに読書会があります。一冊の本を複数人で分担して読み、それぞれが簡潔に内容をまとめて、リレー形式でプレゼンし共有する。共有した後は対話により気づきを深める。こんな読書会の手法があります。アクティブ・ブック・ダイアログ®です。<http://www.abd+abd.com/>

4月に「本と対話で鎌倉を満喫する アクティブ・ブック・ダイアログ® ×街歩き」という企画があり参加しました。オンラインで、ご一緒したことがある方との初めてのリアル対面に加えて、街歩きという五感への刺激が多い中で二冊の本を読む読書会でとても新鮮な体験でした。

鎌倉駅に集合しチェックインの対話をしながら参道の段葛を鶴岡八幡宮へ散策します。

一冊目は『100分 de 名著 「日蓮の手紙」』（植木雅俊著、NHK 出版）です。

鎌倉に所縁のある日蓮が信徒へ向けた手紙を紹介する本を分担して読みリレープレゼンで共有しました。鶴岡八幡宮の源平池のほとりの木陰で、4月の風を感じながら 80 年前の手紙に思いを馳せます。共有を終え、妙本寺まで対話しながら散策します。途中、妙隆寺や辻説法跡など、日蓮が活動した場を訪れると時代を超えて日蓮とシンクロした気分になり、対話も深まります。

二冊名は『日本習合論』（内田樹著、ミシマ社）です。

妙本寺の大きなお堂の前で鶯のさえずりを耳にしながら分担して読み、プレゼン用のスケッチブックに書き留めます。リレープレゼンをおこなう八雲神社までの散策は対話をせずにそれぞれが内面と向き合う時間としました。妙本寺で読み、八雲神社でリレープレゼンをするのは「日本集合論」にも書かれている神仏習合をイベント企画者が意識してものでした。ここでも書籍の内容と現実の場がシンクロします。

アクティブ・ブック・ダイアログ®の読書会はコロナ禍以前のリアル開催が可能だった時に初めて体験しました。積読（つんどく：本を買うけど積み上げられたまま読まない）の多い私にとってもあっている手法だと感じ、積極的に参加するようになりました。コロナ禍以降はオンライン開催が主流となり、全国各地の人と場所の制約を超えて対話ができる点でさらに魅力が高まりました。そして with コロナとなり、オンラインとオフラインの特性を知った私たちは、オフラインの特性をより活かすような工夫にチャレンジできるようになりました。

これと同じような動きがあらゆる分野で加速するのではないかと期待しています。オンラインでの表出化のウェイトが高かった状況から、ぐるっと SECI がひと回りしてより深い共同化ができるようになるとうよいと思います。私のエッセイは以上です。

リレーエッセイのバトンを当学会の理事で ISO 等標準化研究部会の部会長を務める富士通株式会社の齋藤さんにお渡しします。